

令和 3 年 5 月 27 日現在

機関番号：24403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K18273

研究課題名(和文)「伝えあい保育」の理論と実践における人間観・社会観の関連に関する思想史的研究

研究課題名(英文)Thought of Tsutaeai-Hoiku

研究代表者

吉田 直哉 (Yoshida, Naoya)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・准教授

研究者番号：70626647

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：「伝えあい保育」の理論は、人間に対する認識、および人間が形成する社会に対する認識と緊密に結びつけられながら形成され、発展した。保育の基礎理論としての人間論・社会論は、その素材をソヴィエト＝ロシアの諸学から得てきた。しかし、それは決して、安直な翻訳的導入だったのではない。戦後の保育をめぐる時代状況、特にその時点における支配的な教育学説、心理学説、社会学説を相対化するための拠点が、ソヴィエト＝ロシアにおける社会科学の諸概念に求められたのである。「伝えあい保育」を創り上げようという動機は、戦後日本という時代状況の中で、主流を占めたパラダイムに対するアンチテーゼを提示しようというものだった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「伝えあい保育」の理論的側面に光を当てた。現在の保育学研究は、実践研究、特に実践の意味を解釈しようとする研究に過剰なウェイトがかかっている。しかしながら、実践への意味づけや評価は、理論や思想によってこそ可能になるということを自覚化しようとする研究は乏しい。保育学研究においては、研究者自身が抱く保育に関する規範や価値は、暗黙の内にとどめおかれ、それゆえに言語化されることがない。保育について語ることは、考えることは、保育についての自らの価値観を産出・形成している理論や思想を包摂することで、初めて可能になるはずである。本研究は、そのための礎石の一つである。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on characteristics of curriculum plan in nursery schools suggested in Tsutaeai-Hoiku(1959-). This curriculum plan was constructed through impacts from results of the postwar study of education in Russia.

研究分野：教育学

キーワード：ヴィゴツキー ポルトマン パヴロフ マカレンコ

1. 研究開始当初の背景

本研究が取り上げた「伝えあい保育」とは、その前身の「話し合い保育」運動の発展形として、1959年頃より、法政大学教授であった心理学者・乾孝らを中心とする東京保育問題研究会を核として展開されたムーブメントである。保育実践と理論の同時並行的な発展を志したその運動は、1970年代に興隆期を経た後、現在に至るまでなお、全国の保育実践者、保育研究者によって継承されている。当初の「伝えあい保育」運動は、戦後流行した新教育(経験主義)への批判を行う一方、ソヴィエト連邦における心理学、教育学の知見に依拠しながら進められた。そのことは、「伝えあい保育」が、実践を支える理論に強い意味を見いだしていくことにつながる。「伝えあい保育」が、特に強く依拠した理論には、次の二つが挙げられる。第一に、イワン・パヴロフ(1849-1936)の生理学に基づく「第二信号系」の理論であり、第二に、教育学におけるアントン・マカレンコ(1888-1939)の集団主義教育の理論である。つまり、「伝えあい保育」の理論的主軸は、「言葉」と「集団」に関するものであった。ソヴィエト連邦の諸学に触発されつつ発展した「伝えあい保育」には、次の三つの特徴が見いだせる。第一に、言語を媒介して相互的にコミュニケーションしあうことで、生活世界に対する認識を共同的に深めていこうとしたことである。第二に、人間を個別的な存在として捉え、環境からの刺激に一方的に「適応=学習」していくような受動的な存在として捉える人間観に反対したことである。第三に、人間の発達を、本能の成熟に一元的に帰する生物学主義的な人間観に異議を唱えたことである。コミュニケーションを介した他者との関係性を重視する以上、「伝えあい保育」は、集団主義保育としての性格を色濃く持つ。複数の人間が、対等の地位で関わり合う集団性を育て上げることこそが、「伝えあい保育」の目標だとされるのである。「伝えあい」とは、まず、人間と人間との間のコミュニケーションの過程である。他者の存在を前提としているのが「伝えあい」である。そうだとしたならば、伝えあい保育の理論とは、集団性と、その中における他者のあり方、他者とのコミュニケーションに関する理論を核心として構築されなければならないであろう。「伝えあい保育」の理論家たちは、集団性と、コミュニケーションに対する理論的な枠組みを作り上げる際、ソヴィエト連邦における心理学、教育学の知見に、その拠り所を見出した。

2. 研究の目的

本研究では、今まで注目されてこなかった「伝えあい保育」の理論的側面に光を当てることであった。現在の保育学研究は、実践研究、特に実践の意味を解釈しようとする研究に過剰なウェイトがかかっている。しかしながら、実践への意味づけや評価は、理論や思想によってこそ可能になるということを自覚化しようとする研究は乏しい。保育学研究においては、研究者自身が抱く保育に関する規範や価値は、暗黙の内にとどめおかれ、それゆえに言語化されることがない。つまり、保育研究者による、自らの保育観とそれを支える人間観と社会観に対する省察的、あるいはメタ的研究は、後景に押しやられてきたのである。しかし、自らの実践への意味づけや評価を可能にしている暗黙の保育理論・保育思想を、省察的・メタ的に認識することのないままでは、実践そのものの意味をすら十分に語り得ないということにもなりかねない。保育について語ること、考えることは、保育についての自らの価値観を産出・形成している理論や思想を包摂することで、初めて可能になるはずである。

3. 研究の方法

伝えあい保育関係者の著作の読解による解釈的方法を採る。

4. 研究成果

本研究の特色は、「伝えあい保育」の理論のうち、その基礎・基盤をなす人間認識、人間観に着目する点にある。というのも、人間の本質規定に適合するように、「伝えあい保育」の理論は構想されてきたからである。「伝えあい保育」を根底から支えてきた人間観、それを本書では「人間学」と呼びたい。「伝えあい保育」が育てることを目指してきた人間像と、その人間が構築することになるだろう社会像を明らかにしようとするのが本研究であった。

本研究は、8人の所論に焦点を当てて明らかにした。すなわち、「伝えあい保育」を支える根底的な理念を追求した乾孝、天野章、近藤薫樹、および、上記3人の理論的な基礎を踏まえながら、保育内容の諸側面に焦点を当てた各論的な思索を展開した文学教育論の高橋さやか、身体表現論の斎藤公子、自然保育論の安部富士男、遊び文化論のかこさとしの4人、さらに、「伝えあい保育」の理論史の総括的取り組みとしての「保育構造論」の構築を図った宍戸健夫の計8人である。上記のようなさまざまな領域において、「伝えあい保育」の理論が、実践との交流を経つつ、多様に展開された様子を見た。特に、宍戸の二度にわたる保育構造論の提示は、戦後半世紀にわたる理論的・実践的取り組みの成果が、保育構造というクリアな図式で表現されたという

意義を持った。「伝えあい保育」の理論は、人間に対する認識、および人間が形成する社会に対する認識と緊密に結びつけられながら形成され、発展した。保育の基礎理論としての人間論・社会論は、その素材をソヴィエト＝ロシアの諸学から得てきた。しかし、それは決して、安直な翻訳的導入だったのではない。戦後の保育をめぐる時代状況、特にその時点における支配的な教育学説、心理学説、社会学説を相対化するための拠点が、ソヴィエト＝ロシアにおける社会科学の諸概念に求められたのである。「伝えあい保育」を創り上げようという動機は、戦後日本という時代状況の中で、主流を占めたパラダイムに対するアンチテーゼを提示しようというものであったのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 69
2. 論文標題 安部富士男の保育構造論において飼育・栽培活動が持つ教育的意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会問題研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 15
2. 論文標題 天野章による集団主義保育論の理論的基盤としての人間観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間科学：大阪府立大学紀要	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 43
2. 論文標題 高橋さやかの児童文学教育論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 121-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 68
2. 論文標題 大場牧夫の保育カリキュラム論における人間関係：子ども同士・子ども-保育者との関係性の定位に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会問題研究	6. 最初と最後の頁 83 - 91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 42
2. 論文標題 保育論の基礎としての人間学：近藤薫樹による生物学のアレンジメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 131 - 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 18
2. 論文標題 津守真の「子ども学」構想における子ども理解法の射程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 33 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 14
2. 論文標題 斎藤公子の「リズムあそび」に見る生物 = 進化的モメントと歴史 = 文化的モメントの臨界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間科学	6. 最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 0
2. 論文標題 汐見教育人間学における「書く」ということ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育・保育の現在・過去・未来を結ぶ論点	6. 最初と最後の頁 252 - 262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 25巻3号
2. 論文標題 保育者の専門性としての「ケア」再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会臨床雑誌	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 7
2. 論文標題 近藤薫樹の保育論における知的教育と道德教育の止揚	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸松蔭女子学院大学研究紀要人間科学部篇	6. 最初と最後の頁 115-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 特別号
2. 論文標題 神戸市における保育実践の2原型	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸松蔭女子学院大学教職支援センター年報	6. 最初と最後の頁 60-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 11
2. 論文標題 かこさとし(加古里子)による子どもの遊び文化論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育文化研究	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田直哉	4. 巻 70
2. 論文標題 穴戸健夫の保育構造論形成に対する教育諸科学からの影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会問題研究	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 吉田直哉
2. 発表標題 安部富士男の保育論における飼育・栽培活動の背景にある労働観と人間観
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田直哉
2. 発表標題 保育論の基礎としての人間学
3. 学会等名 関西教育学会第69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田直哉
2. 発表標題 近藤薫樹の保育モデルにおける知的教育と道德教育の止揚
3. 学会等名 関東教育学会第65回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田直哉
2. 発表標題 保育構造論の中の「自由遊び」における人間関係
3. 学会等名 関西圏女子大学連携プロジェクト第5回異分野交流会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田直哉
2. 発表標題 穴戸健夫の保育構造論の形成に対する教育諸科学からの影響
3. 学会等名 日本教育学会第79回大會
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 吉田直哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ふくろう出版	5. 総ページ数 150
3. 書名 「伝えあい保育」の人間学：戦後日本における集団主義保育理論の形成と展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関